

# 情報の授業の取り組みについて

富山県立呉羽高等学校 島 徹

## 1 はじめに

本校に入学する1年生は、音楽コースで定員割れした人数を音楽コース以外の普通科で合格とするので、その分2年次から文系・理系のクラスが40人を超えることになる。PC室には40台しかPCがなく、授業展開に苦勞しているのが現状である。また、「社会と情報」は第2学年に履修しているため、情報モラルに関する指導が1年次にできないことも課題である。

以上の問題は、1学年に履修できれば解決するが、教育課程上困難であるのが現状である。

## 2 授業実践「言語活動の充実と情報モラル」

### ○指導目標

- ①生徒全員が発表をすることで、情報モラルの内容を全員で共有することができる。
- ②クラスで1人1人が発表することで、プレゼンテーション能力の伸張や言語活動の充実を図る。

### ○授業展開

- ①情報モラルの補助教材「ケーススタディ情報モラル」を読み込む。これには、著作権、セキュリティ、サイバー犯罪など、利用上気をつけることや事件になった事例が書かれている。
- ②その中から1番興味のあるものを選ぶ。詳しく知っているもの、これから調べてみたいものなど、選ぶ意図は生徒それぞれである。課題として各自それについて調べてくる。
- ③PowerPoint でプレゼン用の資料を作る。  
(以前に「芸術祭のクラス出し物について」のPowerPoint を作っているが発表はして

いない) ここまでで5時間を要した。

- ④最後に、クラス全体の前で発表した。クイズ形式で聞き手を巻き込んだり、発問しながら発表を進めたりする生徒も見られた。  
(1人5分程度の発表)

聞き手は、感想を書き、発表を評価する。  
(用紙記入もしくはスカイメニューの活用)

## 3 成果と今後の課題

この授業展開は2カ年実施した。初年度は事例ごとのグループ内で発表させ、その中から選ばれた1名がクラスの前で発表した。事例内容が重複しなかったことはよかったが、全体で発表する生徒は限られていたため、言語活動の充実が図られなかったと感じ、次年度は1人1人が発表することにした。前年度と異なり、全員が人前で発表することができたので生徒にとっていい経験になったと感じる。事例内容は重複したが、生徒によって事例の捉え方が異なっており(法的に説明する/事例を元に注意点を示す/用語をまとめる等)他者との物事の見方・捉え方の違いも感じることもできた。今回は、新学習指導要領のキーワードでもある「情報モラル教育」「言語活動の充実」を意識し、両方を満たすような授業展開を考えた。モラルに関しては、今回の授業だけでは不十分で、HRやSTなどで最近の事例などを取り上げて解説するなどの必要性はまだ感じる。言語活動に関しては、他教科でも発表などを取り入れており、共に生徒のコミュニケーション能力向上を目指していきたい。ただし、発表だけに限らず、文章表現や感想文の共有なども言語活動の一部として捉え、今後の指導法を研究していきたい。